

G20、IMF に世界危機対策の監視と評価を依頼

IMF サーベイ・オンライン
2009年3月14日



輸出を待つ車の列: 金融危機の影響により世界貿易は落ち込んでいる。(写真: Antonio Scorza/AFP/Getty)

- G20、金融システムの問題解決・貸出しの回復が最優先課題
- 危機にある新興市場並びに途上国支援に尽力
- 各国財務相、IMF 財源の大幅増加に同意

G20 先進並びに新興市場国各国の財務大臣は国際通貨基金 (IMF) に対し、各国政府及び中央銀行がこれまで実施してきた世界経済危機への政策対応についての評価を依頼すると共に、IMF の融資財源の大幅な拡充に向けて支持する意向を表明した。

先進並びに新興市場国の財務大臣は、IMF に対し各国政府と中央銀行がこれまで実施してきた世界経済危機への政策対応についての評価を依頼すると共に、IMF の融資財源の大幅な拡充に向けて支持する意向表明した。

20 カ国グループ (G20) の財務大臣並びに中央銀行総裁は、世界の成長回復に断固たる決意で臨むと述べた。「我々の優先事項は、必要と判断された場合、流動性支援の継続、銀行の資本増強そして不良資産の処理など、共通の枠組の下金融システムの問題に真正面から取り組み、貸出しを回復させることだ」と2日間に渡った会議終了の際に発表された声明で述べている。

同会議に出席した財務大臣らは、システム上重要な金融機関、市場、そして金融商品は全て適切な規制と監督の下に置かれるべきという点で合意するとともに、ヘッジファンドやその監督者に関しては登録制を敷き、そのもたらし得るリスクの評価に必要な、適切な情報を開示することでも合意した。

同声明は、IMF に対し、これまでに各国政府が世界経済成長回復にむけ実施した行動に関する評価を行うとともに、2007 年中盤に米国のサブプライム市場から始まった危機の対処において、今後必要な施策の提言を行うよう求めた。世界各国政府は既に刺激策を発表し、景気後退対策として金利の引き下げも行っている。

ロンドンサミットに向けて

4月2日のロンドンでのサミットに先駆け、世界金融・経済危機対応策の調整を行うべく集まった各国財務相は現下の混乱に起因する逆流する国際資本フローの対処に追われる、新興市場並びに途上国に対する支援に尽力していると述べた。

また、景気循環軽減のための支出や銀行の資本増強、インフラ整備、貿易信用、借換えリスク、そして社会的支援に要する資金調達のため、国際金融機関資源の動員と流動性の活用にもつめた、あらゆる手段を駆使することが喫緊の課題だと認識しているとした。

G20 各国は、IMF の財源は大幅に拡充される必要があると述べた。その資金は IMF 加盟国の個別の資金提供、IMF の公的な借入取極の増加、もしくはクォータ（出資割当額）の見直し、といった手段によって拡充される。日本は既に 1,000 億ドルの追加資金提供を行っている。

ティム・ガイトナー米財務長官は、米国の提案した IMF [新規借入取極](#)とその参加国の拡大を通じた IMF 緊急財源の大幅な拡充に対し、G20 各国より支持を得たと語った。

「我々が直面している課題は、IMF と IMF の能力を今以上のことをなしえるよう強化することだ」と、トレバー・マニユエル南アフリカ財務大臣は述べた。

これまでに、IMF は危機の影響下にある世界各国の支援に 500 億ドル規模の融資を行っている。IMF のドミニク・ストロスカーン専務理事は、現下の危機が悪化し、より多くの国が IMF に融資を要請する事態に備え、IMF の財源を少なくとも 5,000 億ドルへと倍増したいとしている。急減している貿易と資本の流れの減少を受け、ストロスカーン専務理事は、世界経済はマイナス成長の時期、同専務理事が呼ぶところの「グレート・リセッション（大規模景気後退局面）」、に突入したと述べた。

G20 は、国際開発機関が必要な資金を確実に確保できるよう、まずアジア開発銀行の大規模な資本増加を行い、世界の最貧困層の支援に最大限に活用したいとした。

世界の人口の 3 分の 2 を占める G20 諸国

G20 は世界の国民総生産の 90%、世界貿易の 80%（EU の域内貿易を含む）、そして世界の人口の 3 分の 2 を占める。

G20 は、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、メキシコ、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、韓国、トルコ、英国、米国、そして EU 議長国（交代制）及び欧州中央銀行から構成されている。IMF 専務理事、世界銀行総裁、国際通貨金融委員会委員長、IMF・世界銀行の開発委員会議長も G20 会議に参加する。

ストロスカーン専務理事は、同時に低所得国の声に耳を傾けることも重要であるとした。IMF は 3 月 10 日から 11 日に渡り、アフリカ諸国の見解を聞く機会としてタンザニアに

て大規模な会議を開催し、その見解がロンドン会議においても反映されるよう注力するとした。

新規制度と新規統治（ガバナンス）機構

その他 IMF に関する G20 の声明の主要な点は以下の通りとなっている：

- IMF と世界銀行による、融資可能額が大きく迅速に融資支払いが行われる予防的の制度を始めとする、新規の強化された融資ファシリティの導入における進展を、G20 各国は歓迎する。
- IMF と金融安定化フォーラム（FSF）に対し、システムック・リスクが高くなった場合に警鐘を鳴らす早期警戒メカニズムの開発を求める。
- 国際金融機関の実効性と正当性の強化が必要であるとともに、これら組織が世界経済の変化を反映していることが重要である。新興市場並びに最貧国を含め途上国は、より一層の発言権と代表権が与えられるべきであり、次回の IMF のクォータの見直しは 2011 年までに完了することを求める。
- 2008 年 4 月に決定をみた IMF のクォータとボイス（発言権）に関する施策は、早急に実行に移されなければならない。世界銀行の改革は 2010 年春季会合までに完了することを求める。国際金融機関の最高責任者は、能力に基づき開かれたプロセスで選定されるべきである。

より一層の発言権を求める BRICs

また別の声明において、ブラジル、ロシア、インド、中国の主な新興市場国 4 カ国は、国際機関におけるより一層の発言権を求めると同時に、IMF 財源の大幅な増加に対し支持を表明した。

「我々は、各国際金融機関の改革に特に注目している。我々は IMF が新たな世界の通貨金融構造に即したものとなるよう、IMF の役割と権限に関する見直しを支持しする。我々は明確なスケジュールと計画をもって、ガバナンス改革へ断固として取り組むことが重要であると考え」と述べた。

BRICs はこの度の危機により、IMF の世界経済の監視機能と政策提言提供の能力の強化が必要であることが明白になったとした。「この実現には、我々は全 IMF 加盟国に対するより焦点を絞った公平なサーベイランス（政策監視）が重要であると考え。特に主要国際金融センターと、大規模な国境を越えた資本の流れを有する先進国も例外ではないと考える。」

本稿へのご意見は、imfsurvey@imf.org まで。

本稿は、IMF Survey magazine: www.imf.org/imfsurvey の記事を翻訳したものである。